

ゆかりの人々
People

ゆかりの人々 > 知られざる偉人 > 飯沼金太郎さん

飯沼金太郎さん 亜細亜航空学校・機関学校の開校

亜細亜航空学校の開校

亜細亜航空学校は、1933（昭和8）年5月22日に開校式を行った。校長は飯沼金太郎、教官4名、練習生30余名であった。主な施設概要は次のとおり。

- ・本部事務所は、豊多摩郡井荻町上井草（現在の杉並区上荻4丁目）の亜細亜航空機材研究所内に置いた。航空学校使用の飛行場は、東京市洲崎5号埋立地（現在の江東区豊洲）32万坪。
- ・格納庫2棟200坪、事務所、倉庫計60坪を建築
- ・飛行可能機10機（所有している機数はもっと多い）

同校は、1936（昭和11）年4月、陸軍大臣認定民間飛行学校に指定され、逓信省航空局委託指定飛行練習生を教育することになり、さらなる教授陣や運営体制の強化を目指した。

亜細亜航空機関学校の開校

航空機の安全運航にとって機体整備は極めて重要である。その航空機器の整備、監視、操作などを行うには高い能力と技術力を要する。それにもかかわらず、当時の民間航空学校に併設されていた機関科は小規模であった。亜細亜航空機関学校は、併設ではなく国内初の独立した民間航空機関士の養成学校として誕生。多くの生徒が入校してきた。

主な施設は、次のとおり。

- ・本部事務所は、豊多摩郡井荻町上井草（現在の杉並区上荻4丁目）の亜細亜航空機材研究所内に置いた
- ・当初、同研究所内の100坪ほどの工場を使用して実習が行われたが、後にこの工場を160坪に増設（※）し、別に85坪の発動機工場を新築した

しかし、同研究所との共用が限界に達したため、1935（昭和10）年12月に板橋区石神井関町1丁目33番地（現在の練馬区関町南1丁目1番地）に移転した。

※航空専門誌『航空時代 1933（昭和8）年10月号』の記事によると、この増設は1933（昭和8）年中に行われたようである。正確な期日は不明